

くすりと健康のはなし

## 薬包紙

第99回

一般社団法人岐阜県薬剤師会  
職能対策委員 定岡邦夫

医療現場において薬剤師は、医師や看護師と比べて患者さんやそのご家族にとってわかりにくい存在であると思います。皆さんにとって薬剤師はどのような存在でしょうか？

私が病院薬剤師になって20年以上の月日が経ちましたが、この間に薬剤師を取り巻く環境は大きく変化し、私たちの業務も一変しました。皆さんが何らかの病気で入院になった際に、主治医や担当看護師と一緒に薬剤師もいませんでしたか？検査の結果などから、処方された薬が適切な用量なのか、複数の薬が処方された場合に飲み合わせに問題がないかなどをチェックするのも薬剤師の仕事です。また、副作用が疑われる症状を発見した際には、医師に対して用量調整や薬の種類の変更など処方変更の提案を実施。その時点の患者さんの病態に応じて、最適な薬を選択するために医師と熱い議論を重ね、時には葛藤もしながらチームの輪のなかで、薬剤師は患者さんのために医師と共に薬治療法に取り組んでいるのです。

## 薬のあるところに薬剤師あり

地域にある町の薬局薬剤師も頑張っています。患者さんやご家族との会話、お薬手帳に記載された情報、処方箋についている検査値表などから、患者さんにとって不利益な些細な変化を見逃すことなく安心安全な薬物療法が行えるように日々の業務にあたっています。さらに高齢化社会が進んでいる現在、薬局から飛び出して在宅で療養されている患者さんのもとへ出向いて活躍している薬剤師もたくさんいます。薬剤師は医療現場において縁の下の力持ちといった存在であると考えています。

薬のあるところには私たち薬剤師が必ず存在します。皆さんの周りには、患者さんやご家族から必要とされ、役に立つ存在でありたいと願って日々の業務に励んでいる薬剤師がたくさんいます。そういった薬剤師を病気の治療や健康維持のためのパートナーとして上手く利用していただきたいと思います。必ず、親身になって一緒に考えてくれると思えます。